

あいさん事務所便り

「介護職員の精神疾患」急増で 求められる対策の見直し

◆労災申請は 5 年で 2 倍、認定は 3 倍に

厚生労働省の調べで、仕事上のストレスが原因でうつ病などの精神疾患を発症したとして、労災を申請した介護職員が 2014 年度までの 5 年で 2 倍以上に増えたことがわかりました。

労災認定された人も約 3 倍に増加し、業種別の順位でもトップなどに上昇しています。

◆申請件数は業種別ではトップ

上記集計によると、2014 年度の精神障害の労災請求件数は 1,456 件、支給決定件数は 497 件で、ともに過去最多となりました。

このうち、業種別の中分類で、介護を含む「社会保険・社会福祉・介護事業」の精神疾患の労災申請は、2009 年度の 66 人が 2014 年度には 140 人となり、業種別のトップに増加しました。

ここ 5 年の増加率は約 2.1 倍で、全業種の約 1.3 倍を大きく上回りました。

◆認定件数は「道路貨物運送業」に次ぐ 2 位

また、労災認定も 2009 年度の 10 人が 2014 年度には 32 人に増え、全業種の認定数(2014 年度は 497 人)の増加率(2.1 倍)を大きく上回りました。

業種別の順位でも、2014 年度は「道路貨物運送業」(41 人)に次ぐ 2 位でした(2009 年度は 5 位)。

◆精神疾患の労災認定の基準は

中分類の「社会保険・社会福祉・介護事業」には福祉施設などで働く人も含まれますが、厚生労働省によると、多くは介護の労働者だそうです。

精神疾患の労災は、労災認定基準に基づいて仕事の負荷との因果関係を判断します。長時間残業や仕事の内容・量の大きな変化、長期の連続勤務、パワハラやセクハラなどがあった場合などにストレスの程度を評価し、強いストレスがあれば認定されます。



◆労災対策の見直しが急務

労災申請と認定の時期は年度がずれるケースもあり、2015 年度の認定はさらに増える可能性があります。

厚生労働省は個別の事例は公表していませんが、今回の結果は、慢性的な人手不足が続く介護業界の長時間残業や不規則な交代制勤務など、深刻な事情を反映しているものと考えられ、これまでは腰痛対策などの肉体的な労災対策を中心にしてきた介護分野での労災対策は、早急な見直しが迫られることになりそうです。

平成 28 年度「年度更新」 手続のポイント

◆雇用保険料率は「引下げ」

労働保険の保険料は、年度当初に概算で申告・納付をし、翌年度の当初に確定申告のうえ精算します。つまり、年度更新手続は、前年度の確定保険料と当年度の概算保険料を併せて申告・納付する手続きです。

この保険料とは「労災保険料」と「雇用保険料」ですが、保険料算出に使用する保険料率が、労災保険料率は前年度から変更ないものの、雇用保険料率は引き下げられ、一般の事業 1000 分の 11 (前年度 1000 分の 13.5)、農林水産・清酒製造の事業 1000 分の 13 (前年度 1000 分の 15.5)、建設の事業 1000 分の 14 (前年度 1000 分の 16.5) となっています。

◆手続きに必要な様式等の入手方法

必要な様式やツール等は、厚生労働省のホームページに随時アップされます。

今年度は、申告書の送付は5月末からスタートし、提出は6月1日から7月11日までの間に行いますが、事前に準備できるものは早めに取り掛かっておきましょう。

◆「法人番号」の記載が必要に

申告書の様式が変更され、「法人番号欄」が追加されています。

法人番号とは、国税庁から通知された13桁の番号で、この番号を記入します（1法人につき1つ割り当てられるので、支店や事業所においても同じ番号を記入します）。個人事業主の行う事業については、法人番号欄の13桁すべてに「0」を記入します。

◆建設の事業は消費税の取扱いに注意

建設の事業で労務費率により保険料の算定基礎となる賃金総額を算出する場合、前年度中に終了した事業については、事業の開始時期により消費税率等に係る暫定措置の適用の有無が異なります。

詳細は厚生労働省ホームページ等で確認しておきましょう。

◆熊本・大分における地震の被害に伴い労働保険料等の納付猶予を受ける場合

今年4月に熊本県・大分県を中心に発生した地震により、事業の経営のために直接必要な財産（事業財産）に相当の損失（おおむね20%以上）を受けた事業主は、「納付猶予申請書」および「被災証明書」を提出することにより、一定期間その納付の猶予を受けることができます。

この申請は、年度更新申告書の提出とともに行うことも可能ですが、被害額が申告書の提出までに確定しない場合は、災害が止んだ日から2月以内に行います。

6月の税務と労務の手続提出期限 [提出先・納付先]

1日

- 労働保険の年度更新手続の開始<7月10日まで> [労働基準監督署]

10日

- 源泉徴収税額・住民税特別徴収税額の納付 [郵便局または銀行]
- 雇用保険被保険者資格取得届の提出<前月以降に採用した労働者がいる場合>

[公共職業安定所]

- 労働保険一括有期事業開始届の提出<前月以降に一括有期事業を開始している場合>

[労働基準監督署]

- 特例による住民税特別徴収税額の納付 [郵便局または銀行]

30日

- 個人の道府県民税・市町村民税の納付<第1期分> [郵便局または銀行]
- 健保・厚年保険料の納付 [郵便局または銀行]
- 日雇健保印紙保険料受払報告書の提出 [年金事務所]
- 労働保険印紙保険料納付・納付計器使用状況報告書の提出 [公共職業安定所]
- 外国人雇用状況報告（雇用保険の被保険者でない場合）<雇入れ・離職の翌月末日> [公共職業安定所]

雇入時及び毎年一回

- 健康診断個人票 [事業場]

～当事務所よりひと言～

今回は、「介護職員の精神疾患」急増の話題を取り上げました。

介護福祉の現場の労働環境の改善は急務です。ところで、当事務所の弁護士は、この度、QC（品質管理）検定の3級と4級を取得しました。

主に、製造業で盛んな品質管理の視点です。しかしながら、介護福祉等のサービス業の現場でも、重要な視点であると思います。

サービスの品質を高めるためには、働く人の労働環境の改善も必要条件です。

なお、今夏、当事務所の弁護士は、中小企業診断士登録のため、実務補習を受講する予定です。

中小企業診断士としての研鑽を積むことで、経営に関する専門的な知見も高めたいと考えております。

引き続き、中小企業、個人事業主の皆様に対して、専門的な経営法務サービスを提供できるよう努力していく所存です。